

大豆栽培管理情報（第4号）

令和元年6月21日
アルプス農協管内農業技術者協議会

1. 2回目培土

- ・実施時期は、播種後30～35日（本葉4～5葉期）頃です。
- ・培土の効果を高めるため、初生葉が隠れる程度に、株元までしっかり土をかけましょう。
- ・土の上がりを良くするため、できるだけ圃場が乾いている時に作業を行いましょう。
- ・培土作業でできた溝は、うね間や額縁排水溝及び排水口と確実に連結してください。

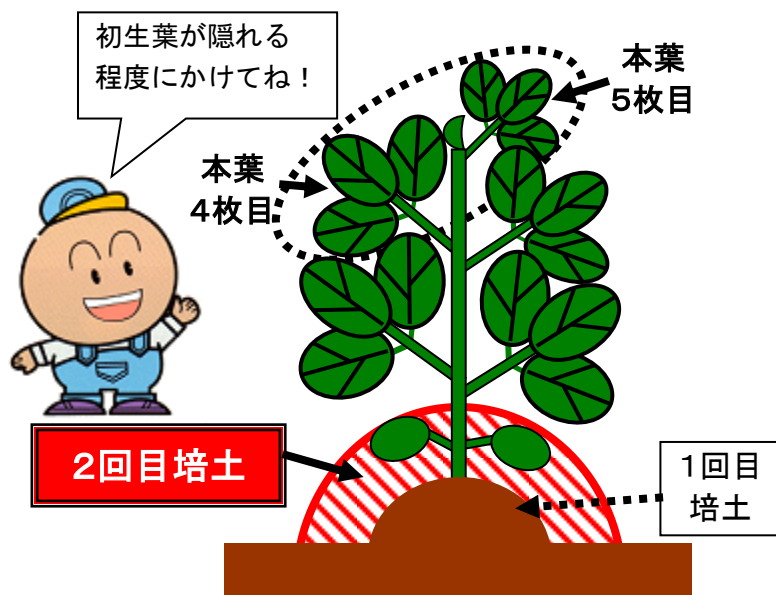


図1 2回目培土のイメージ

2. 雑草防除

- ・培土実施後も雑草が多い場合は、雑草の種類や葉齢に応じ、除草剤を適切に使用しましょう(表1)。

表1 除草剤の散布の目安

	除草剤名	使用時期	適用雑草	10a当り使用量	使用回数
選択性	ポルトフロアブル	雑草生育期 (ただし、収穫30日前まで)	1年生イネ科雑草 (イネ科雑草3～10葉期)	200～300mℓ (水100ℓで希釈)	1回
	大豆バサグラン液剤(注1)	大豆2葉期～開花前 雑草生育初期～6葉期 (ただし、収穫45日前まで)	1年生雑草 (イネ科を除く)	100～150mℓ (水100ℓで希釈)	1回
非選択性(注2)	バスタ液剤	大豆5葉期以降雑草生育期 畦間処理、株間処理 (ただし、収穫28日前まで)	1年生雑草	300～500mℓ (水100ℓで希釈)	ゲルホシネット及びゲルホシネットP 3回以内
	ザクサ液剤	雑草生育期 畦間処理(ただし、収穫28日前まで)	1年生雑草	300～500mℓ (水100ℓで希釈)	ゲルホシネット及びゲルホシネットP 3回以内

注1: 著しい高温が続く場合や、湿害等により大豆の生育が不良の場合は、薬害を助長するので使用を避ける。
注2: 非選択性除草剤は、かかった植物を枯らすので、大豆や周辺作物への飛散に十分注意して散布する。

※難防除雑草については早期発見に努め、発見したら直ちに手取り除草や除草剤散布などで、種子ができる前に確実に防除し、増加を防ぎましょう。

アルプス農協管内で確認された主な難防除雑草



3. 病虫害防除

- ・ウコンノメイガの多発地では、幼虫による葉巻が見られたら、遅れずに防除しましょう。
- ・シュウレイについては、葉焼病を予防するため7月下旬頃に防除を実施しましょう。

表2 随時防除体系

防除時期	対象病虫害	薬剤名	散布量/10a	使用回数等
7月下旬～8月上旬	ウコンノメイガ	サイアノックス粉剤	4kg	2回以内、収穫7日前まで
		プレバソnfフロアブル5(注)	4,000倍 150ℓ	2回以内、収穫7日前まで
7月下旬	葉焼病	Zボルドー	500倍 150ℓ	—



ウコンノメイガ葉巻(左)と幼虫(右)



葉焼病

注) プレバソnfフロアブル5を使用の際は、展着剤を加用してください。